

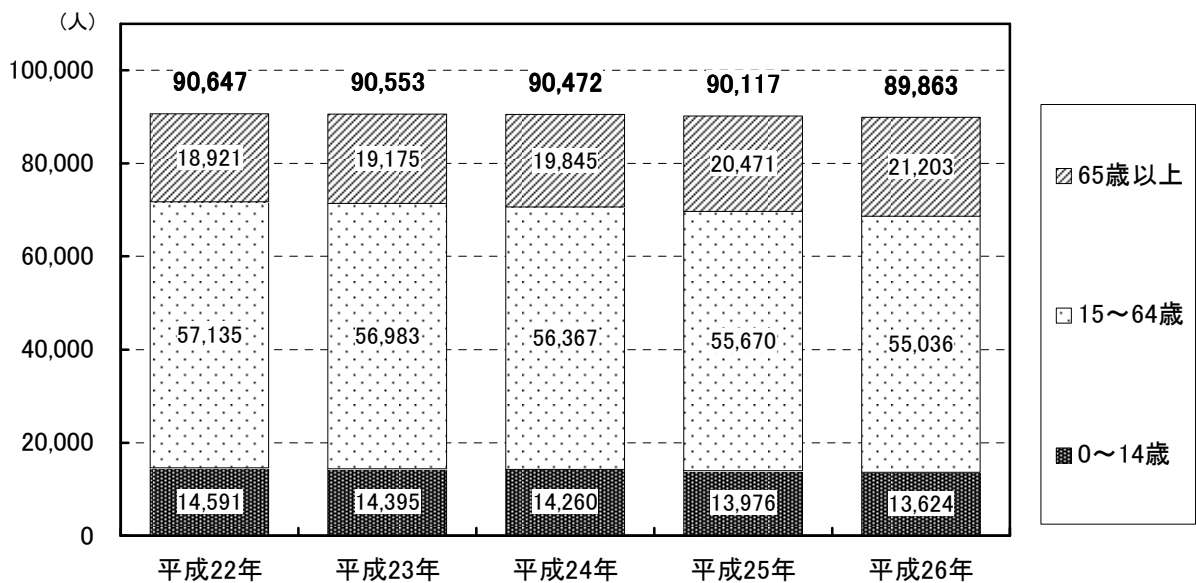
## 第2章 障害のある人を取り巻く状況

### 1. 貝塚市における現況

#### (1) 人口の状況

貝塚市の総人口は、平成26年10月1日現在 89,863人（住民基本台帳人口）で、微減傾向が続いています。また、年齢別人口構成については、65歳以上の高齢者の割合が23.6%（同）を占め、高齢化が着実に進行しています。

貝塚市の人口総数と年齢別構成



※住民基本台帳人口（各年10月1日現在、平成22年・23年は住民基本台帳人口及び外国人登録人口の合計値）

## (2) 障害者数の状況

### 《身体障害のある人》

身体障害者手帳所持者数は、平成26年9月末現在で3,949人となっています。障害種別ごとにみると、肢体不自由、内部障害の順で多く、年齢別には、18歳未満の人は手帳交付者全体の1.9%にとどまり、65歳以上の人が70.6%と急速に高齢化が進んでいます。

年齢別・障害区分別身体障害者手帳所持者数(人)

区 分	総 数	視 覚 障 害	聴 覚・ 平 衡 機 能 障 害	音 声・ 言 語・ そ し や く 機 能 障 害	肢 不 自 由	内 部 障 害
平成22年度	3,846	252	253	35	2,274	1,032
平成23年度	3,878	248	262	38	2,295	1,025
平成24年度	3,936	247	255	40	2,346	1,048
平成25年度	3,941	240	263	40	2,347	1,051
平成26年度	3,949	235	266	38	2,342	1,068
0～17歳	75	2	8	1	38	26
18～64歳	1,087	71	71	16	669	260
65歳以上	2,787	162	187	21	1,635	782

注) 平成22～25年度は3月末現在、平成26年度は9月末現在

《知的障害のある人》

療育手帳所持者数は、平成26年9月末現在で714人と増加傾向にあります。障害程度別では、重度であるAが全体の47.2%を占めて多く、年齢別には、18歳未満の人が31.4%、18歳以上の人が68.6%の割合になっています。

年齢別・等級別療育手帳所持者数(人)

	総数	A	B1	B2
平成22年度	617	320	139	158
平成23年度	646	322	148	176
平成24年度	671	331	150	190
平成25年度	700	337	162	201
平成26年度	714	337	165	212
0～17歳	224	70	53	101
18～64歳	447	232	104	111
65歳以上	43	35	8	0

注) 平成22～25年度は3月末現在、平成26年度は9月末現在

## 《精神障害のある人》

精神障害者保健福祉手帳の所持者数は、平成26年9月末現在で706人と増加傾向にあります。また、自立支援医療（精神通院）の受給者数は、1,318人となっています。

年齢別・等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数(人)

	総数	1級	2級	3級
平成22年度	536	107	356	73
平成23年度	566	112	379	75
平成24年度	623	132	412	79
平成25年度	694	139	460	95
平成26年度	706	132	472	102
0～17歳	25	1	13	11
18～64歳	483	63	345	75
65歳以上	198	68	114	16

注) 平成22～25年度は3月末現在、平成26年度は9月末現在

### (3) 障害支援(程度)区分認定者の状況

障害者総合支援法に基づく障害支援(程度)区分認定の状況は、下表のとおりです。  
認定者数は、平成26年9月末現在で452人と増加傾向にあります。

障害支援(程度)区分認定の状況(人)

障害種別	総数	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
平成22年度	427	12	50	115	87	64	99
平成23年度	429	12	66	113	82	70	86
平成24年度	444	12	67	118	77	75	95
平成25年度	445	10	78	105	77	73	102
平成26年度	452	11	79	100	76	77	109
身体障害者	162	3	28	33	10	27	61
知的障害者	209	3	13	39	58	50	46
精神障害者	81	5	38	28	8	0	2

注) 平成22～25年度は3月末現在、平成26年度は9月末現在  
※区分の数字が大きいほどより介護・支援を必要とする状態を意味します。

## 2. 障害福祉サービスの利用状況

第3期計画期間中の障害福祉サービス（自立支援給付、地域生活支援事業）のサービス利用実績については、以下の表のとおりです。

自立支援給付の利用実績（月平均）

サービス			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
訪問系サービス	居宅介護	身体障害者	人数	108人	113人	77人
			時間	2,438時間	2,285時間	1,969時間
		知的障害者	人数	21人	24人	26人
			時間	219時間	272時間	307時間
	精神障害者	人数	49人	53人	47人	
		時間	460時間	416時間	428時間	
	障害児	人数	9人	8人	5人	
		時間	91時間	43時間	56時間	
	重度訪問介護	身体障害者	人数	6人	10人	9人
			時間	942時間	1,106時間	1,161時間
	行動援護	障害児	人数	0人	0人	0人
			時間	0時間	0時間	0時間
同行援護	身体障害者	人数	45人	42人	40人	
		時間	1,416時間	1,416時間	1,430時間	
短期入所	身体障害者	人数	26人	27人	23人	
		日数	97日	116日	120日	
	知的障害者	人数	28人	28人	23人	
		日数	125日	77日	70日	
	精神障害者	人数	1人	0人	0人	
		日数	1日	0日	0日	
	障害児	人数	5人	6人	4人	
		日数	9日	12日	13日	

※平成26年度については平成26年9月末までの実績値をもとにした見込み量

第2章 障害のある人を取り巻く状況

自立支援給付の利用実績（月平均）

サービス			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
日中活動系サービス	生活介護	身体障害者	人数	59人	57人	53人
			日数	948日	890日	861日
		知的障害者	人数	146人	147人	144人
			日数	2,481日	2,769日	2,963日
		精神障害者	人数	5人	3人	1人
			日数	20日	13日	12日
	療養介護	身体障害者	人数	7人	9人	13人
	自立訓練 （生活訓練）	身体障害者	人数	1人	1人	2人
			日数	15日	13日	20日
	自立訓練 （生活訓練）	知的障害者	人数	8人	9人	7人
			日数	43日	124日	146日
		精神障害者	人数	1人	2人	0人
			日数	0日	11日	0日
	就労移行支援	身体障害者	人数	0人	1人	1人
			日数	0日	1日	22日
		知的障害者	人数	14人	18人	11人
			日数	161日	191日	211日
		精神障害者	人数	2人	2人	2人
			日数	0日	6日	18日
	就労継続支援 （A型）	身体障害者	人数	0人	0人	1人
日数			0日	0日	15日	
知的障害者		人数	4人	6人	6人	
		日数	59日	105日	124日	
精神障害者		人数	3人	3人	3人	
		日数	55日	54日	48日	
就労継続支援 （B型）	身体障害者	人数	6人	7人	6人	
		日数	81日	83日	95日	
	知的障害者	人数	55人	57人	55人	
		日数	753日	875日	1,031日	
	精神障害者	人数	67人	69人	60人	
		日数	602日	676日	707日	
居住系サービス	共同生活介護 （ケアホーム） 共同生活援助 （グループホーム）	身体障害者	人数	3人	3人	3人
		知的障害者	人数	23人	32人	32人
		精神障害者	人数	18人	16人	17人
	施設入所支援	身体障害者	人数	12人	13人	14人
		知的障害者	人数	50人	54人	53人

※平成26年度については平成26年9月末までの実績値をもとにした見込み量

自立支援給付の利用実績（月平均）

サービス				平成24年度	平成25年度	平成26年度
相談支援	計画相談支援	身体障害者	人数	1人	2人	2人
		知的障害者	人数	1人	3人	3人
		精神障害者	人数	1人	4人	4人
		障害児	人数	0人	1人	1人
	地域移行支援	身体障害者	人数	0人	0人	0人
		知的障害者	人数	0人	0人	0人
		精神障害者	人数	0人	0人	0人
	地域定着支援	身体障害者	人数	0人	0人	0人
		知的障害者	人数	0人	0人	0人
		精神障害者	人数	0人	0人	0人

※平成26年度については平成26年9月末までの実績値をもとにした見込み量



第2章 障害のある人を取り巻く状況

第3期計画における障害福祉サービスの見込量と利用実績の比較（月平均）

サービス		平成24年度	平成25年度	平成26年度	
居宅介護	見込量	3,422時間	3,589時間	3,815時間	
	実績	3,208時間	3,016時間	2,760時間	
重度訪問介護	見込量	1,933時間	1,933時間	885時間	
	実績	942時間	1,106時間	1,161時間	
行動援護	見込量	20時間	25時間	30時間	
	実績	0時間	0時間	0時間	
同行援護	見込量	1,445時間	1,523時間	1,601時間	
	実績	1,416時間	1,416時間	1,430時間	
短期入所	見込量	233人日	249人日	249人日	
	実績	232人日	205人日	203人日	
日中活動系サービス	生活介護	見込量	3,381人日	3,937人日	4,499人日
		実績	3,449人日	3,672人日	3,836人日
	療養介護	見込量	8人	8人	8人
		実績	7人	9人	13人
	自立訓練	見込量	143人日	175人日	226人日
		実績	58人日	148人日	166人日
	就労移行支援	見込量	206人日	330人日	392人日
		実績	161人日	198人日	251人日
	就労継続支援（A型）	見込量	46人日	69人日	69人日
		実績	114人日	159人日	187人日
	就労継続支援（B型）	見込量	1,491人日	1,768人日	2,030人日
		実績	1,436人日	1,634人日	1,833人日
居住系サービス	共同生活介護 共同生活援助	見込量	52人	54人	60人
		実績	44人	51人	52人
	施設入所支援	見込量	67人	64人	60人
		実績	62人	67人	67人
計画相談支援	見込量	5人	9人	21人	
	実績	3人	10人	10人	
地域移行支援	見込量	2人	3人	5人	
	実績	0人	0人	0人	
地域定着支援	見込量	2人	3人	5人	
	実績	0人	0人	0人	

※平成26年度については平成26年9月末までの実績値をもとにした見込み量

## 地域生活支援事業の利用実績（年間）

サービス			平成24年度	平成25年度	平成26年度
相談支援	障害者相談支援事業	実施箇所数	3か所	3か所	3か所
	地域自立支援協議会	実施箇所数	1か所	1か所	1か所
成年後見制度利用支援事業		実施箇所数	1か所	1か所	1か所
コミュニケーション支援	手話通訳者・奉仕員派遣事業	利用者数	28人	17人	18人
	要約筆記者派遣事業	利用者数	4人	2人	5人
日常生活用具給付	介護訓練支援用具	利用件数	18件	19件	20件
	自立生活支援用具	利用件数	23件	28件	30件
	在宅療養等支援用具	利用件数	24件	14件	35件
	情報・意思疎通支援用具	利用件数	22件	39件	50件
	排泄管理支援用具	利用件数	1,821件	2,018件	2,124件
	居宅生活動作補助用具	利用件数	3件	5件	5件
移動支援	身体障害者	利用者数	88人	84人	91人
		利用時間数	8,640時間	8,380時間	9,078時間
	知的障害者	利用者数	44人	62人	63人
		利用時間数	4,187時間	5,956時間	6,052時間
	精神障害者	利用者数	15人	23人	24人
		利用時間数	1,041時間	1,204時間	1,256時間
	障害児	利用者数	28人	21人	22人
		利用時間数	2,055時間	1,271時間	1,331時間
地域活動支援センター	実施箇所数	1か所	1か所	1か所	
	利用者数	83人	107人	110人	

※平成26年度については平成26年9月末までの実績値をもとにした見込み量

### 3. 障害者施策に関わる市民意識

計画策定の基礎資料とした各種調査結果については、次のとおりです。

#### (1) 計画策定に向けたアンケート調査の結果

##### ① 調査目的

計画の策定に向けた基礎資料とするため、市内にお住まいの障害のある人や介助・支援をされている人を対象に、生活やサービス利用の状況、福祉施策に対する意識などを把握することを目的に実施しました。

##### ② 調査方法と回収状況

調査対象	市内に住民登録している身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている人、障害福祉サービスを利用するための受給者証を持っている人 ①18歳以上 2,013名（無作為抽出） ②18歳未満 280名（悉皆）
調査方法	郵送等による配布・回収
調査期間	平成26年7月29日～8月20日（9月30日をもって最終回収締め切り）
回収状況	① 有効回答数 1,083件（有効回答率：53.8%、前回50.9%） ② 有効回答数 142件（ " 50.7%、 54.1%）

#### ◆ アンケート調査結果の見方 ◆

※グラフ中に表記しているアンケート調査結果における各設問の母数n (Number of caseの略) は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比(%)は小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。

※複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%となります。

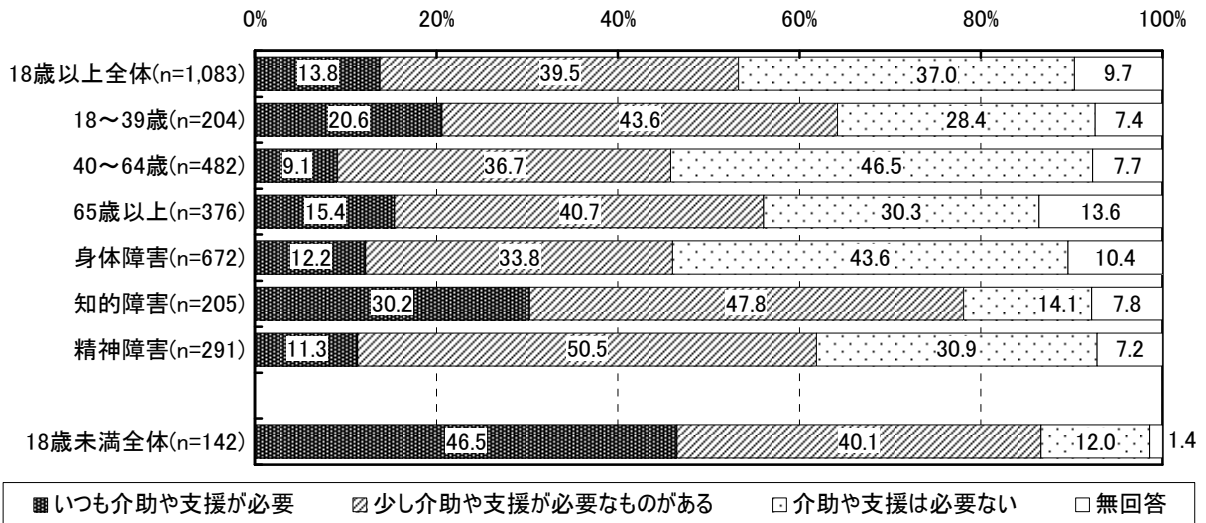
## ③主な集計結果

## 《回答者や家族について》

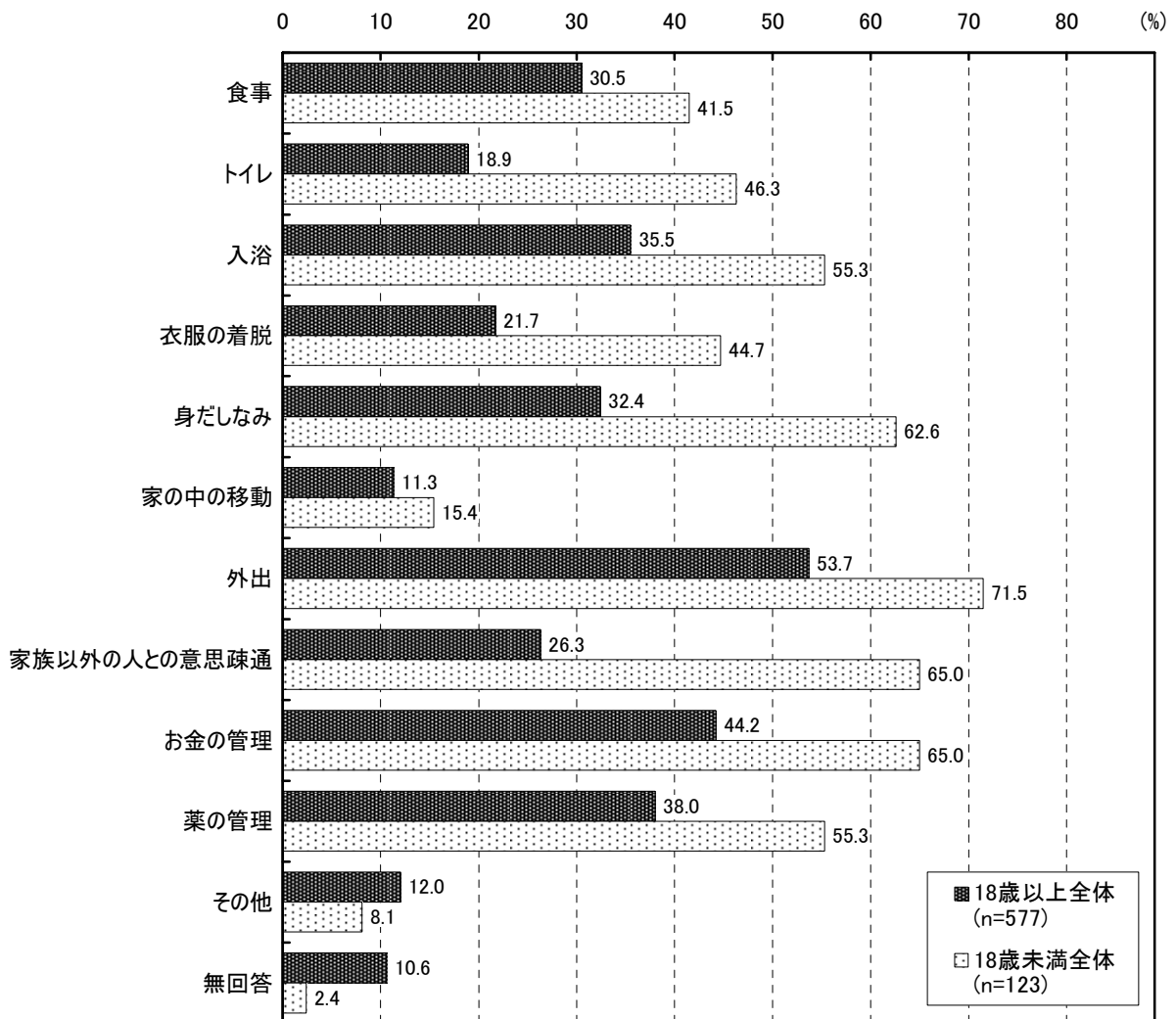
	18歳以上の人を対象とするアンケート	18歳未満の人を対象とするアンケート
主な属性	<u>回答者</u> 本人回答 74.5% 家族回答 18.3% その他 5.0%	<u>回答者</u> 本人回答 20.4% 家族回答 78.9%
	<u>平均年齢</u> 全体 56.9歳 身体 62.6歳 知的 39.8歳 精神 52.2歳	<u>平均年齢</u> 全体 10.1歳 身体 8.7歳 知的 10.5歳 精神 10.7歳
	<u>住まい</u> 自宅で家族と一緒に 67.2% 自宅でひとり暮らし 19.9% 病院や診療所 3.8% 障害のある人のための施設 2.9% グループホームなど 2.9%	<u>住まい</u> 自宅で家族と一緒に 97.9% 病院や診療所 1.4%
	<u>手帳の種別等</u> 身体障害者手帳 62.0% 療育手帳 18.9% 精神障害者保健福祉手帳 26.9% 難病認定・医療費助成 7.5% 発達障害 3.0%	<u>手帳の種別</u> 身体障害者手帳 26.1% 療育手帳 79.6% 精神障害者保健福祉手帳 14.8%
	<u>障害支援(程度)区分認定を受けた人</u> 全体 16.1% 身体 11.5% 知的 43.4% 精神 14.1%	
	<u>要介護(要支援)認定を受けた人</u> 全体 17.9% 身体 23.4% 知的 6.8% 精神 11.3%	

《介助・支援の状況》

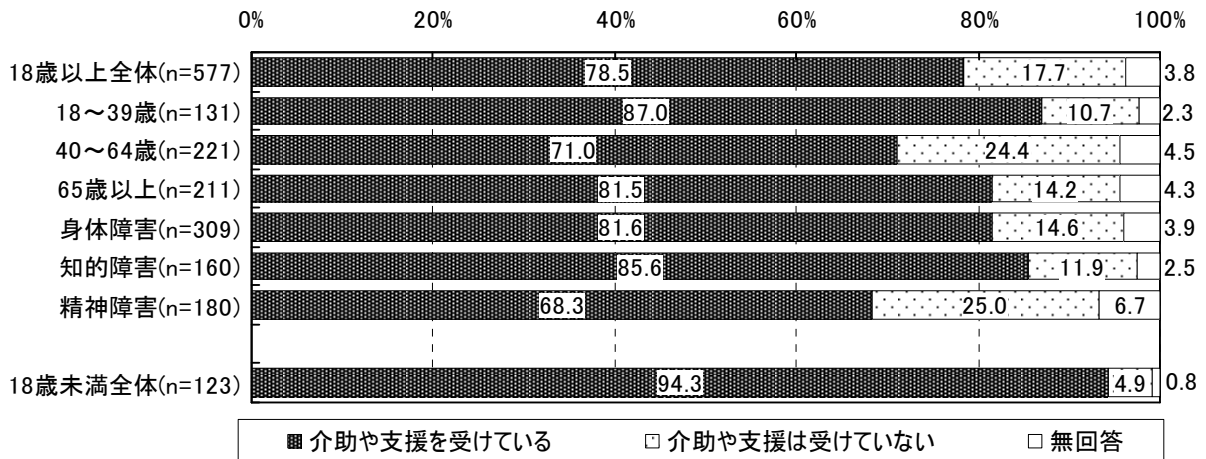
◆日ごろ生活するなかで、何らかの介助や支援が必要ですか。



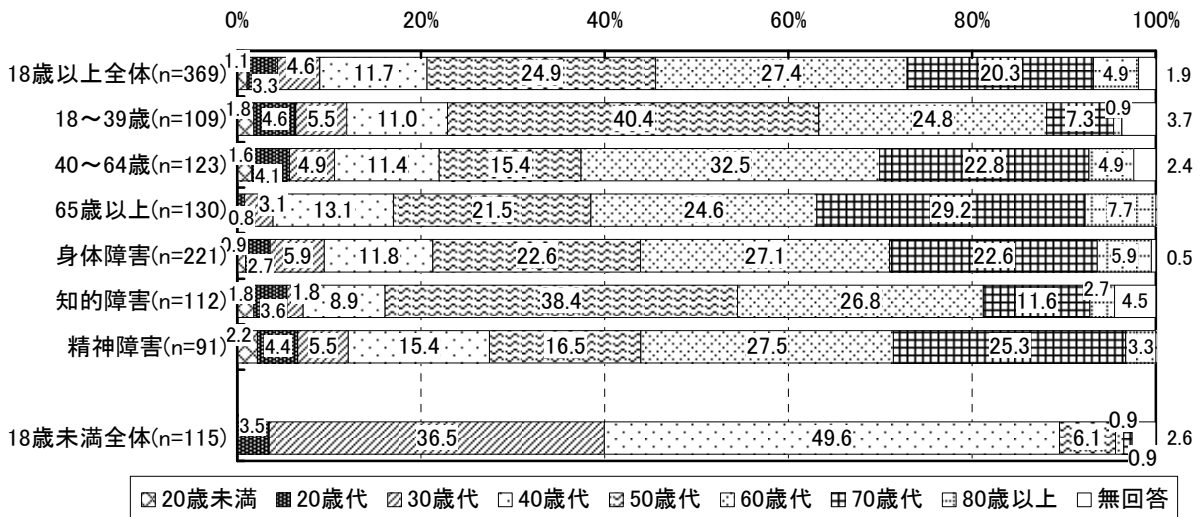
◆どのようなときに介助や支援が必要ですか。



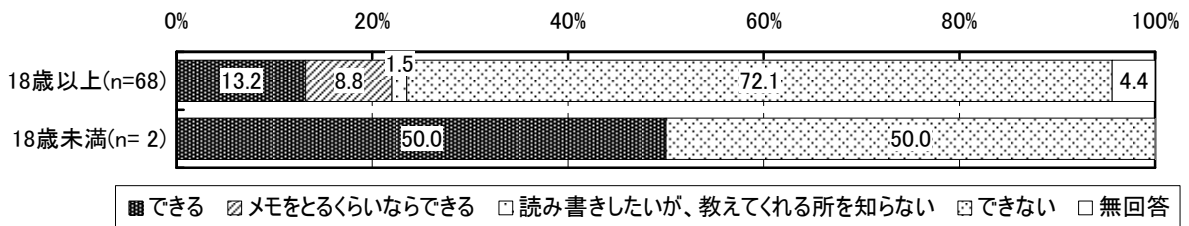
◆現在ご家族などの介助や支援を受けていますか。



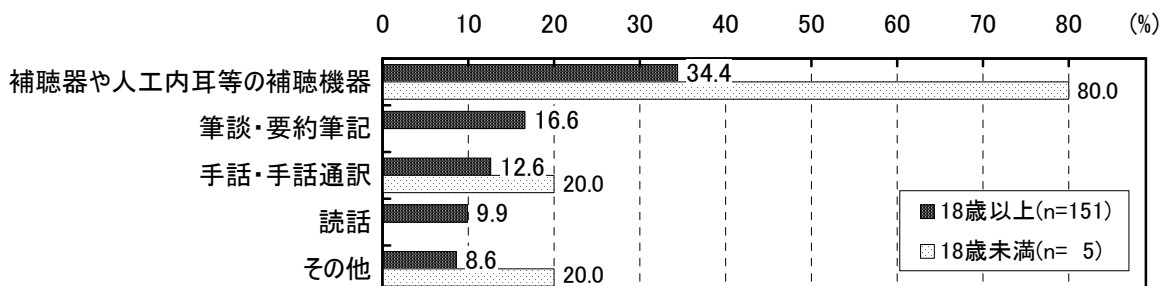
◆特に中心となって介助・支援してくれる人の年齢について教えてください。



◆視覚障害のある人におたずねします。あなたは点字の読み書きができますか。

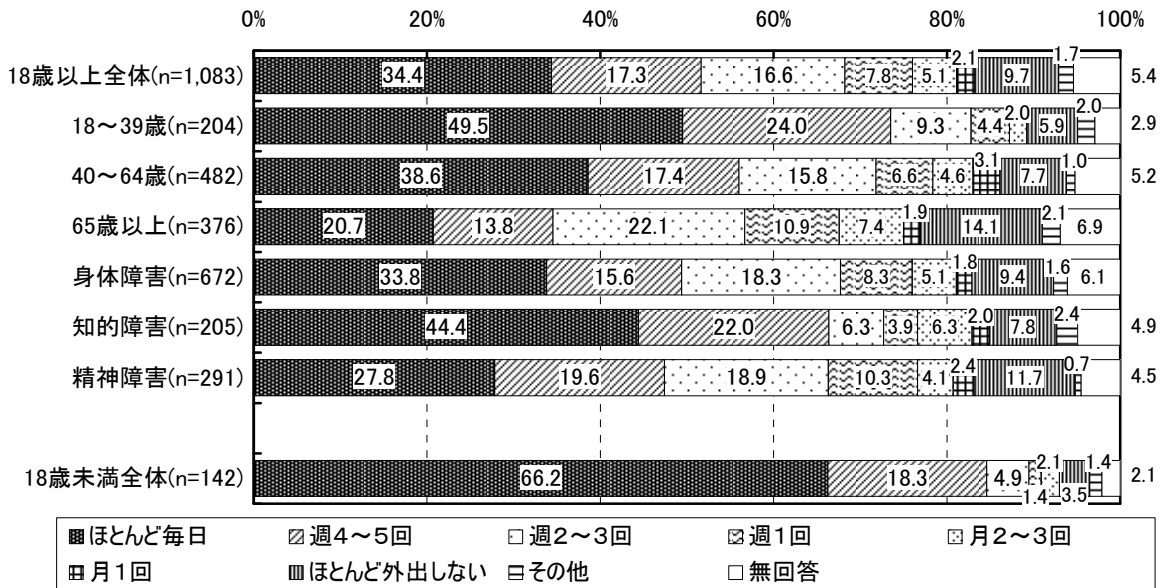


◆聴覚障害や音声・言語障害のある人におたずねします。あなたは、日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。

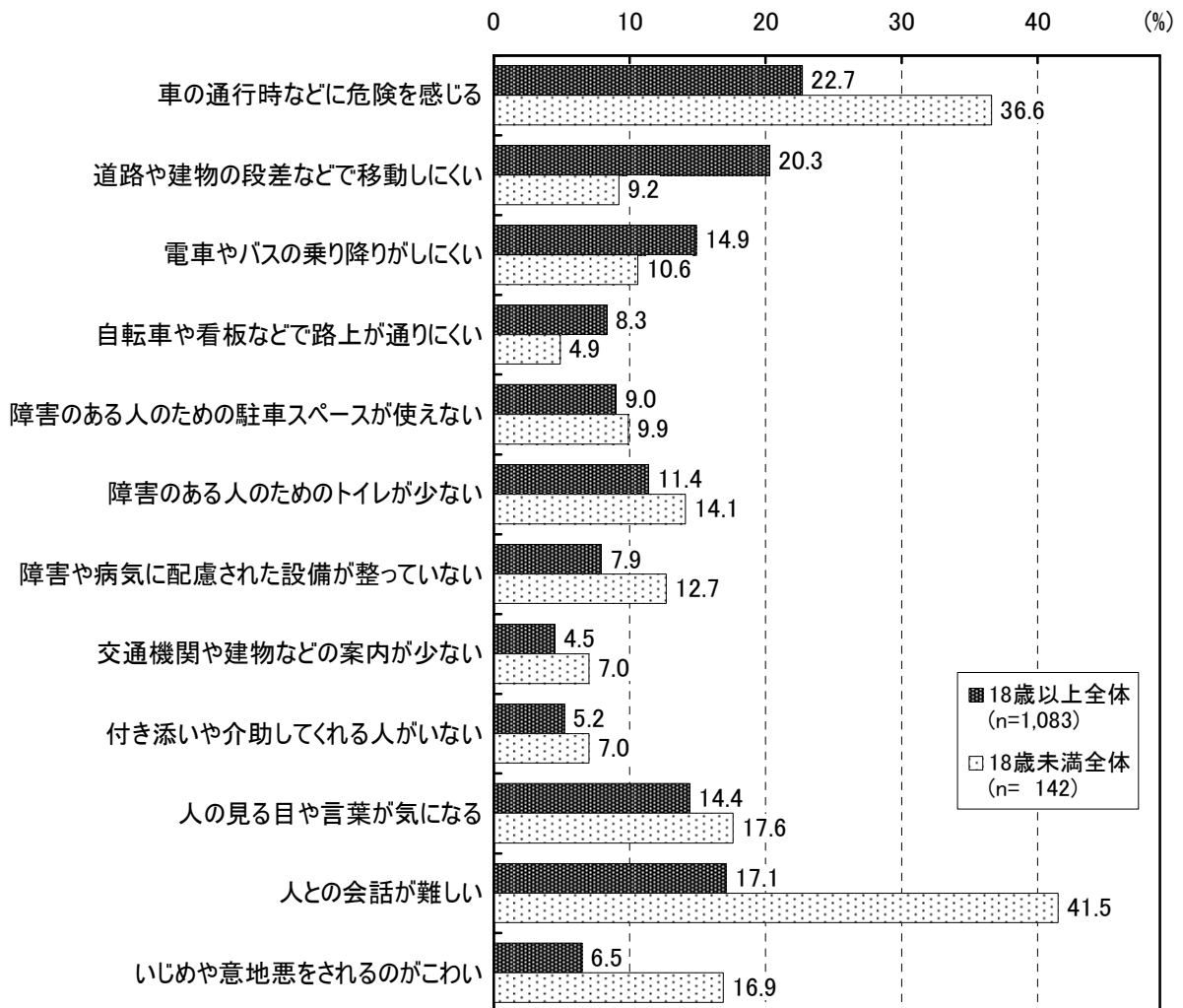


《日中の活動や社会参加の状況について》

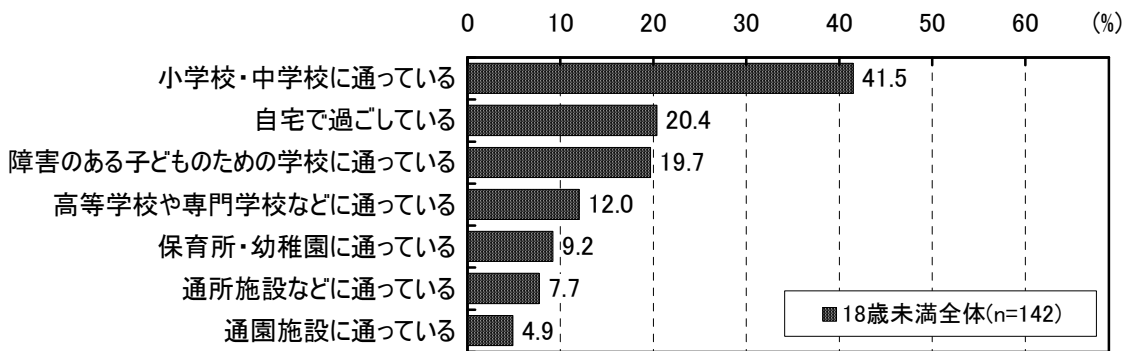
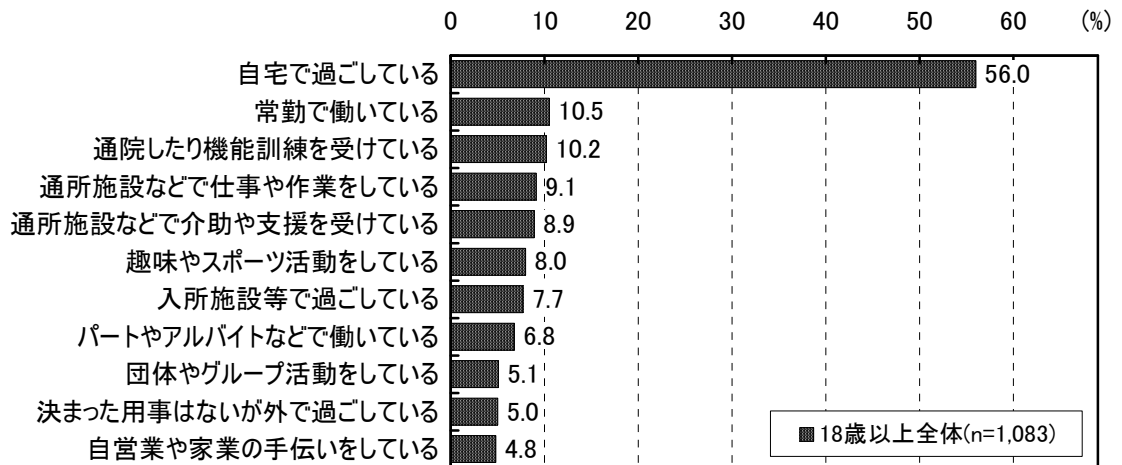
◆あなたはどのくらい外出しますか。



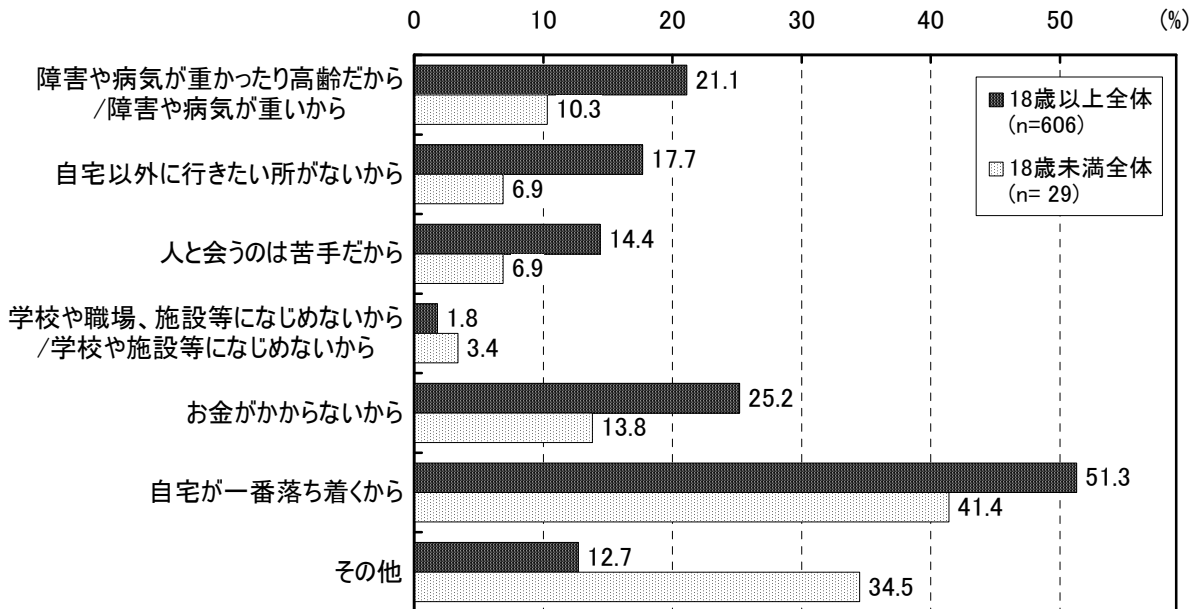
◆外出時に困ることがありますか。



◆日ごろ昼間の時間はどのように過ごしていますか。



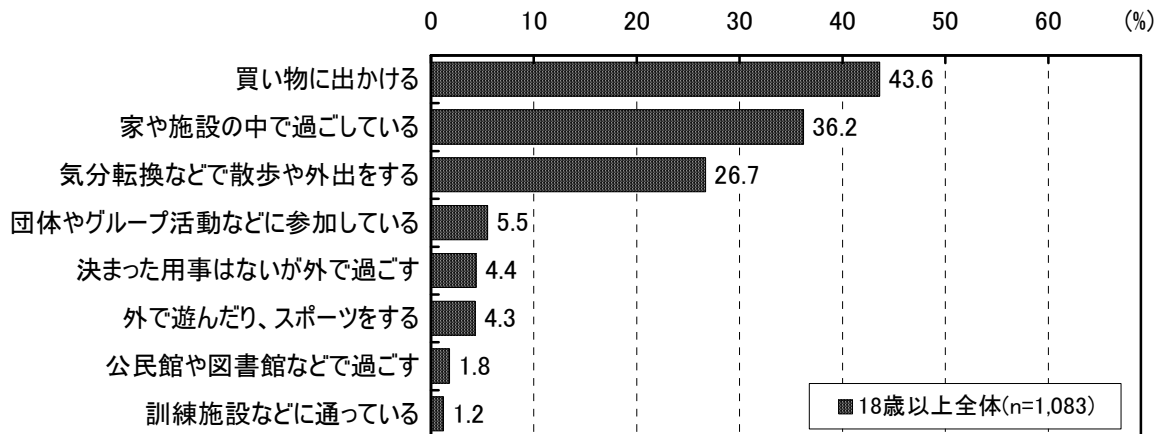
◆自宅で過ごしている人は何か理由がありますか。



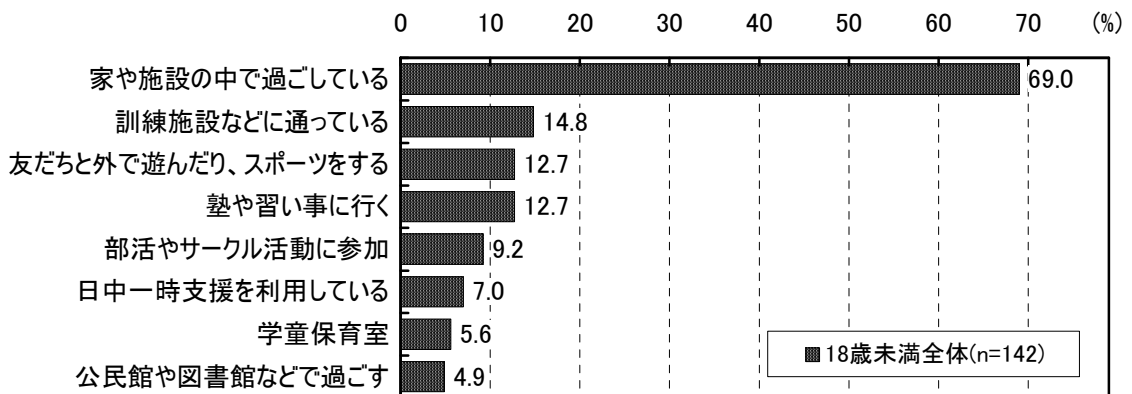


第2章 障害のある人を取り巻く状況

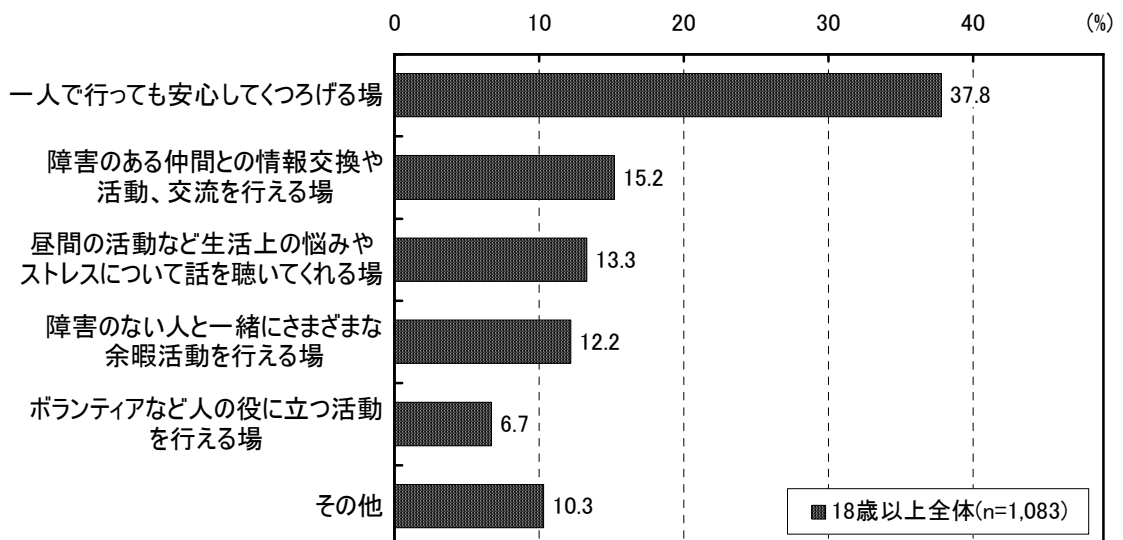
◆仕事や通所施設、学校などが終わった後や、休みの日などに、どのように過ごしていますか。



◆学校や通園施設などの放課後や休みの日などは、どのように過ごしていますか。

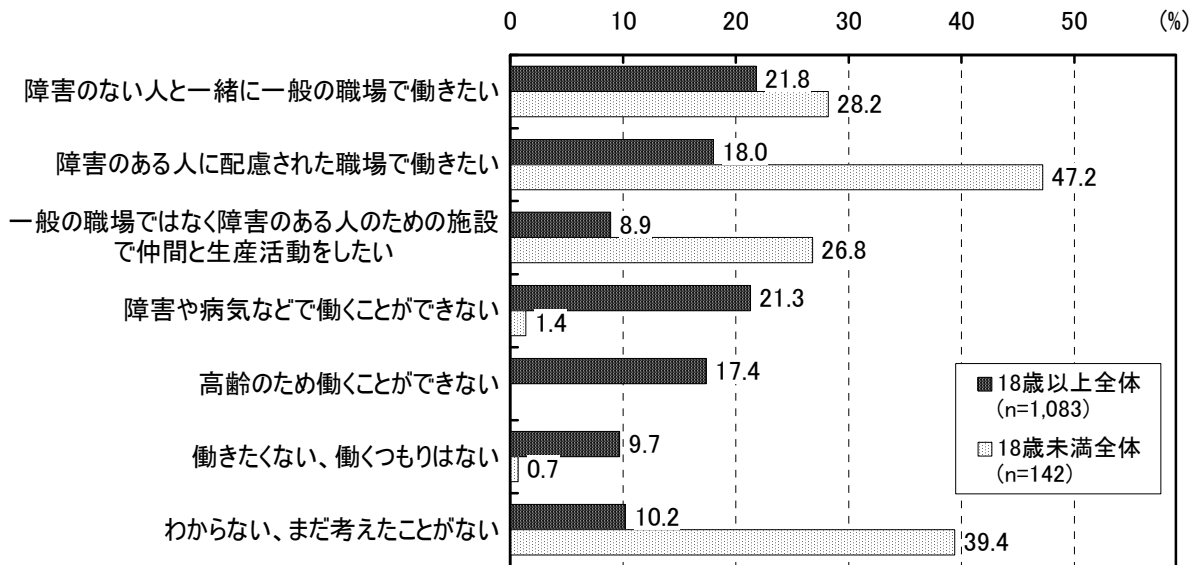


◆平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。

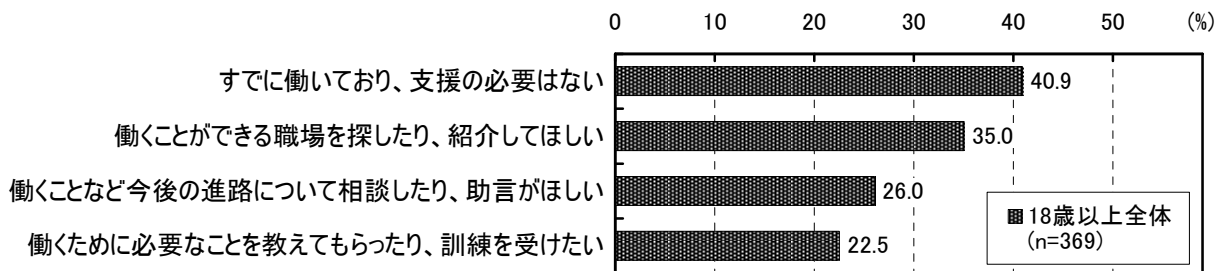


《仕事について》

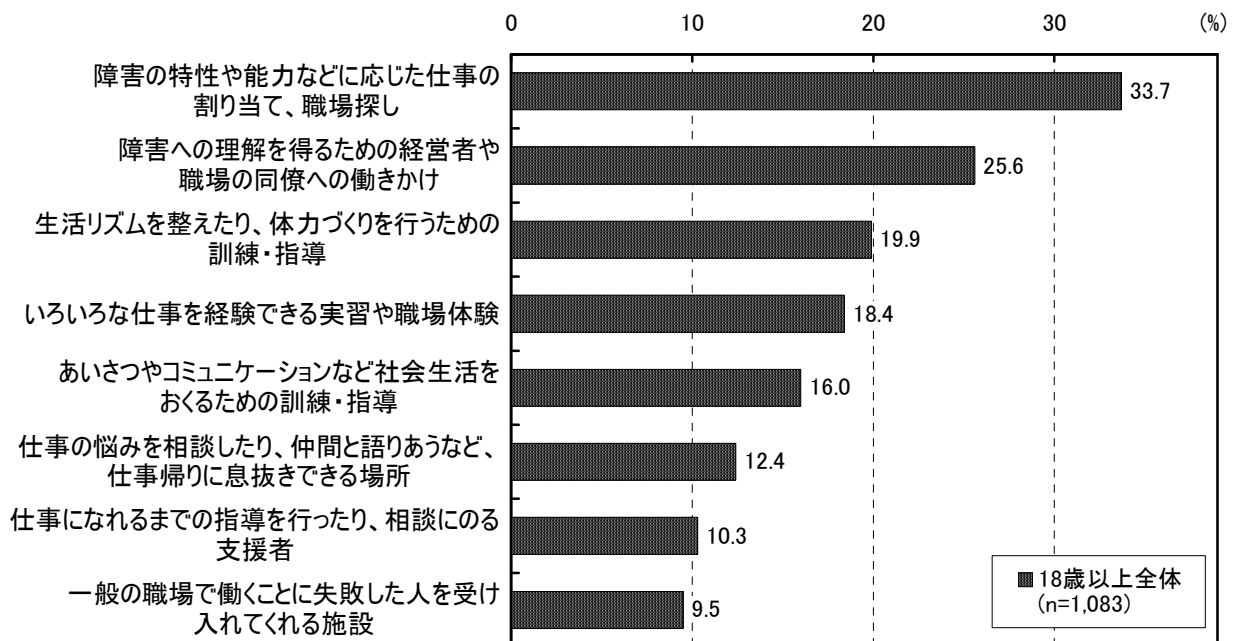
◆今後、働くことについて、どのように考えていますか。現在すでに働いている人も望ましいと思う働き方を選んでください。



◆仕事に就くために必要な支援がありますか。

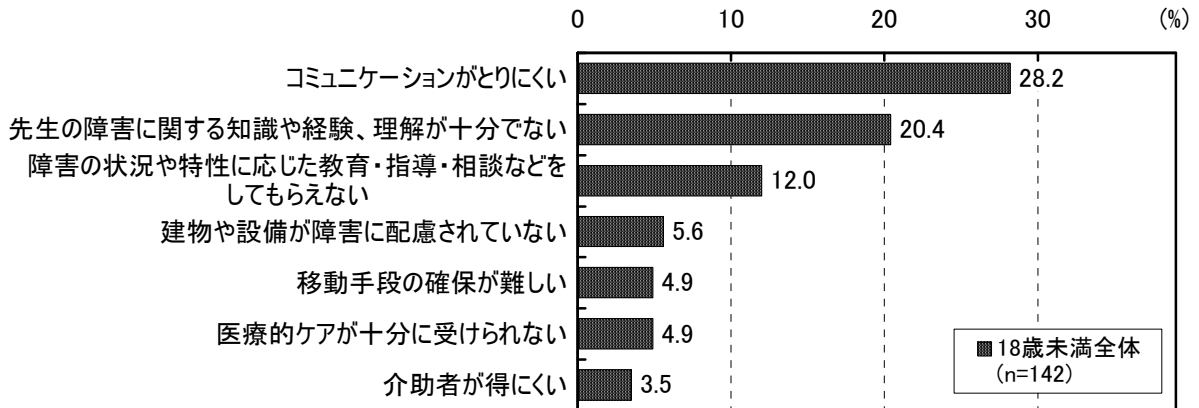


◆障害のある人が一般の職場で働き続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか。現在、働いていない人は、もし一般の職場で働くとしたらと考えて教えてください。

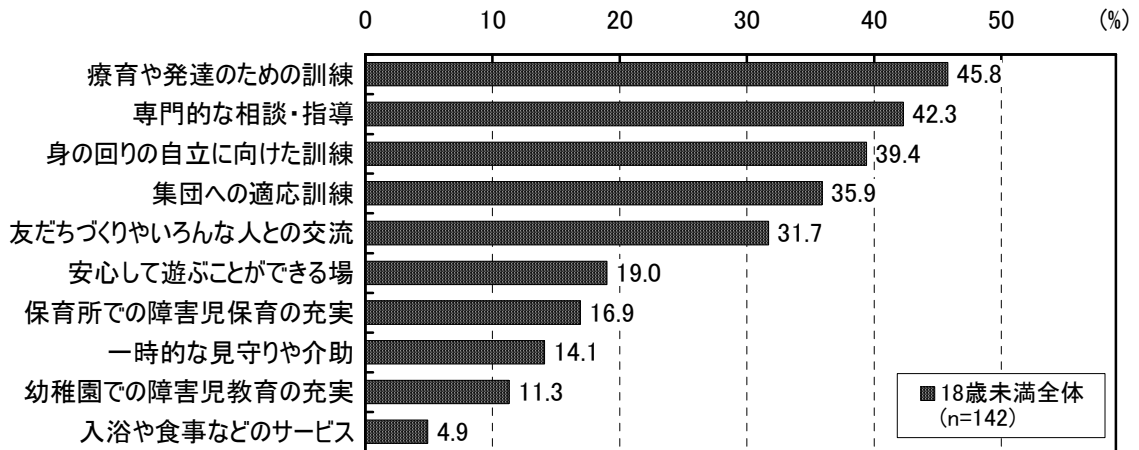


《通園・通学や療育について》

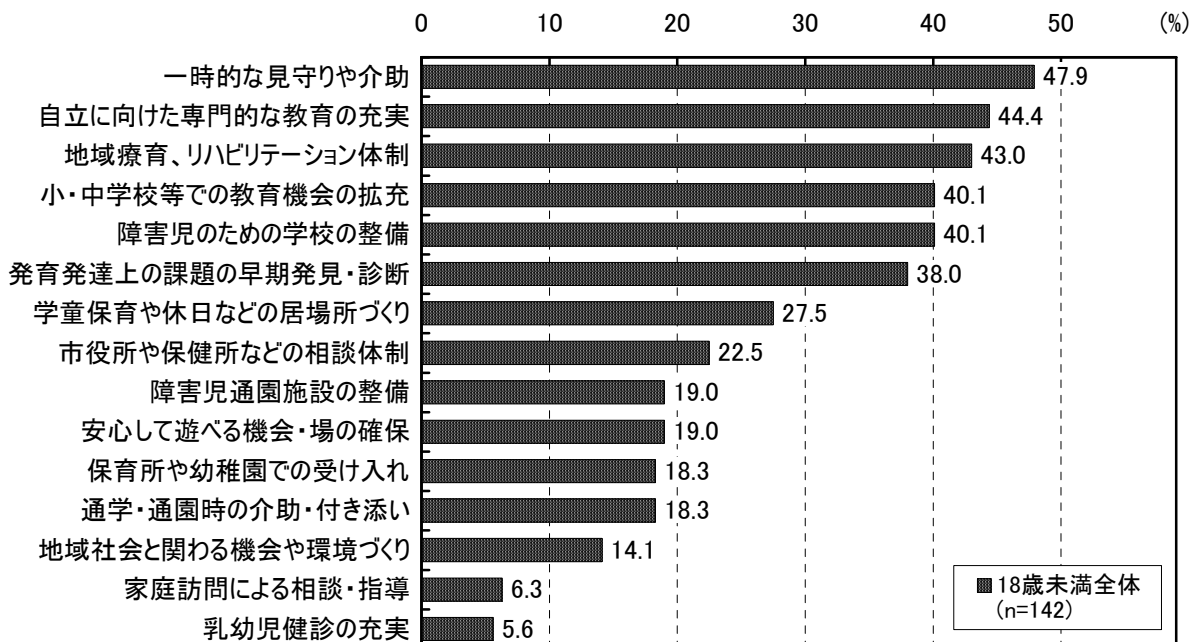
◆学校や通園施設などで困っていることがありますか。



◆保育所や幼稚園、福祉施設など、障害のある子どものための通所型の施設やサービスについて、どのようなことを希望しますか。

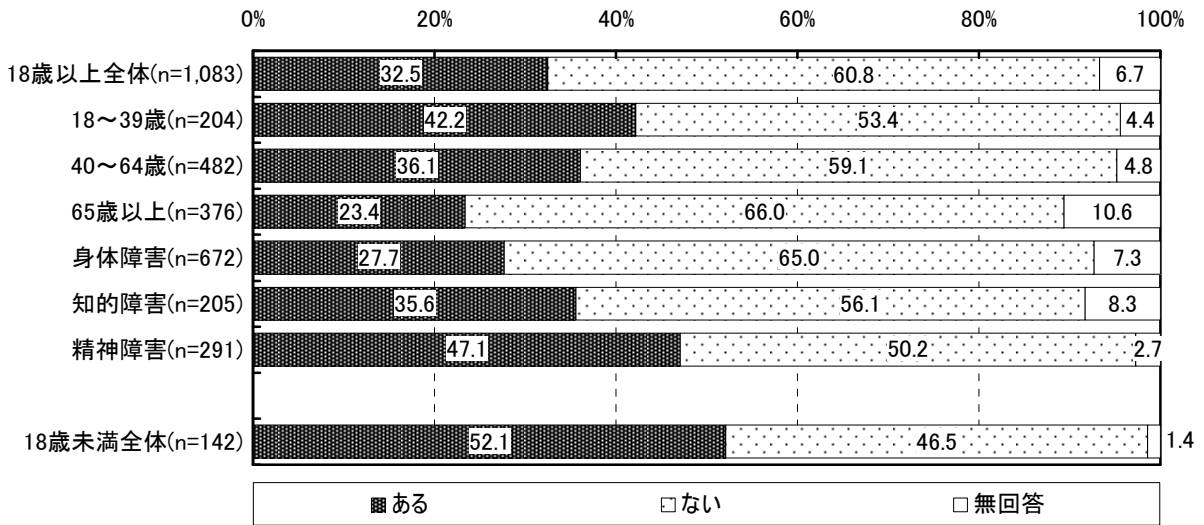


◆障害のある子どものための施策やサービスなどで、特に充実が必要と思うものは何ですか。

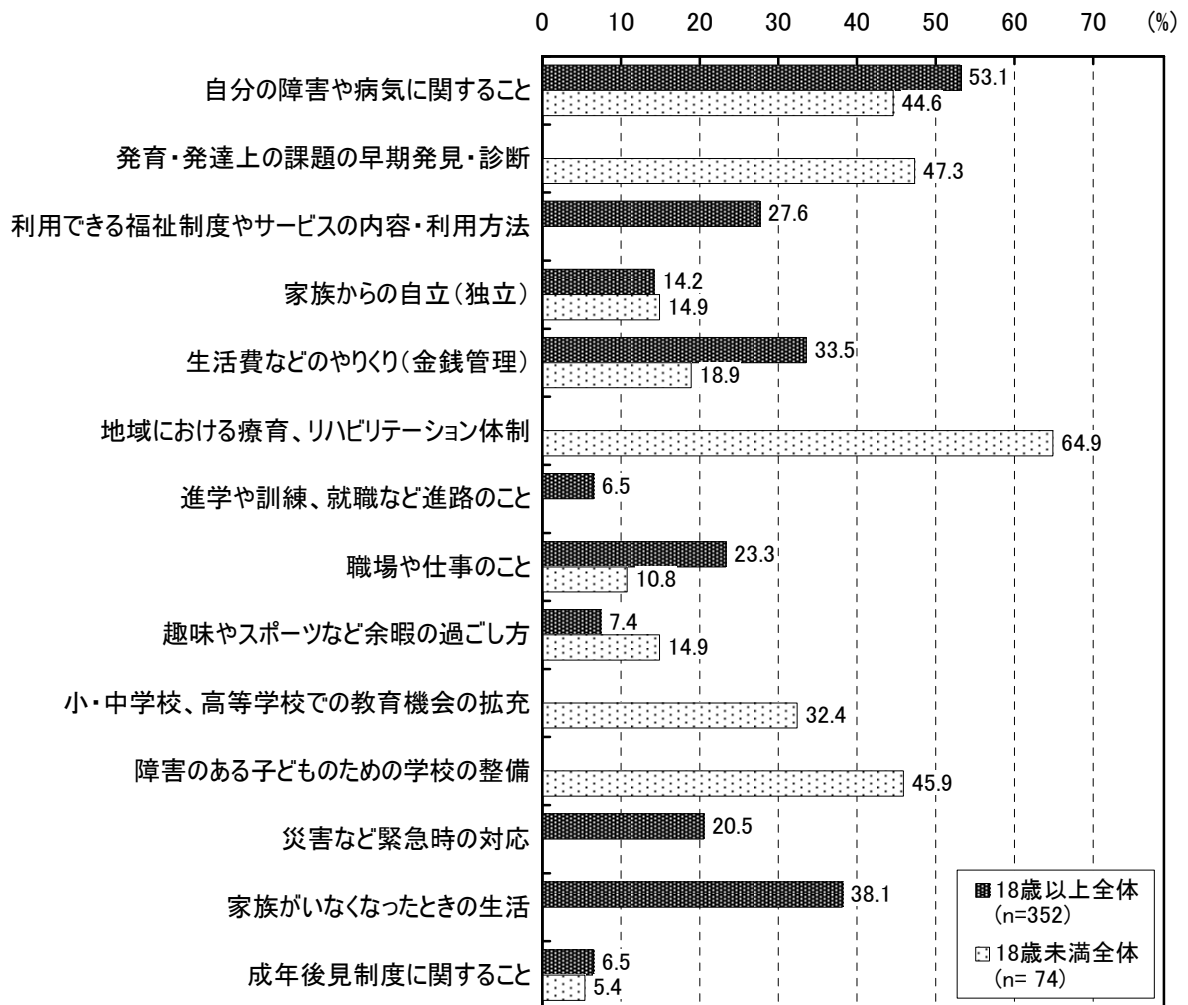


《心配ごとや相談について》

◆困ったことや心配に思っていることを、家族や親戚、日ごろ通われる場所以外の人に相談したことがありますか。

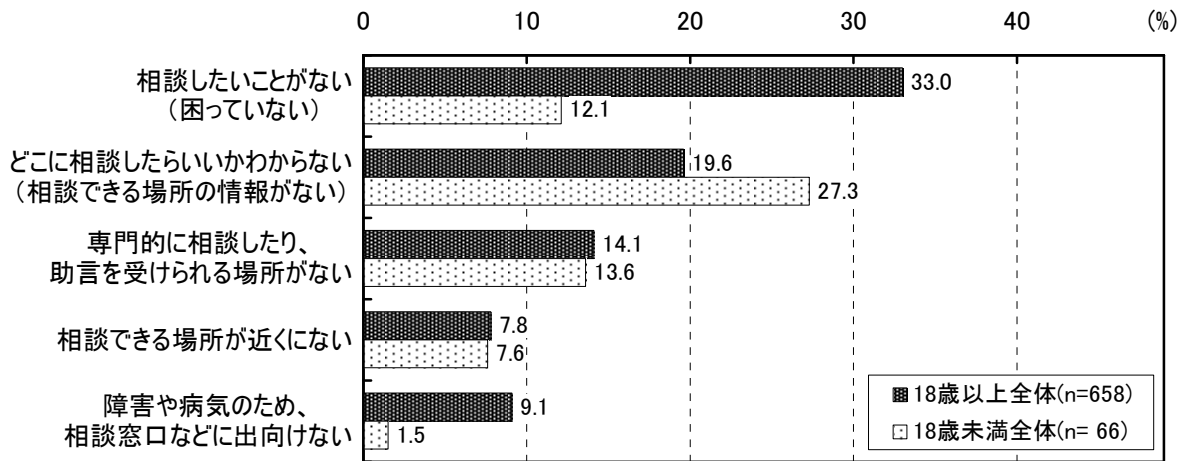


◆今、気にかかっていることはどのようなことですか。

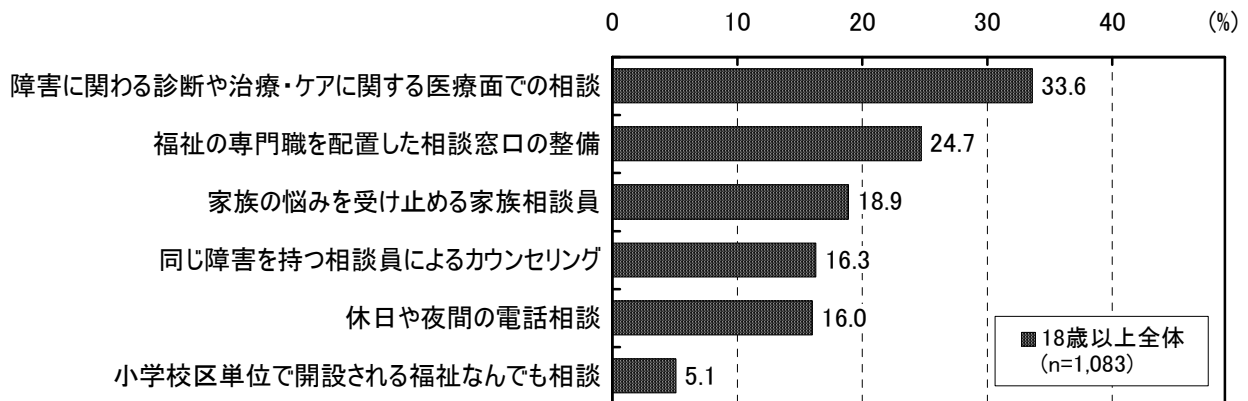


第2章 障害のある人を取り巻く状況

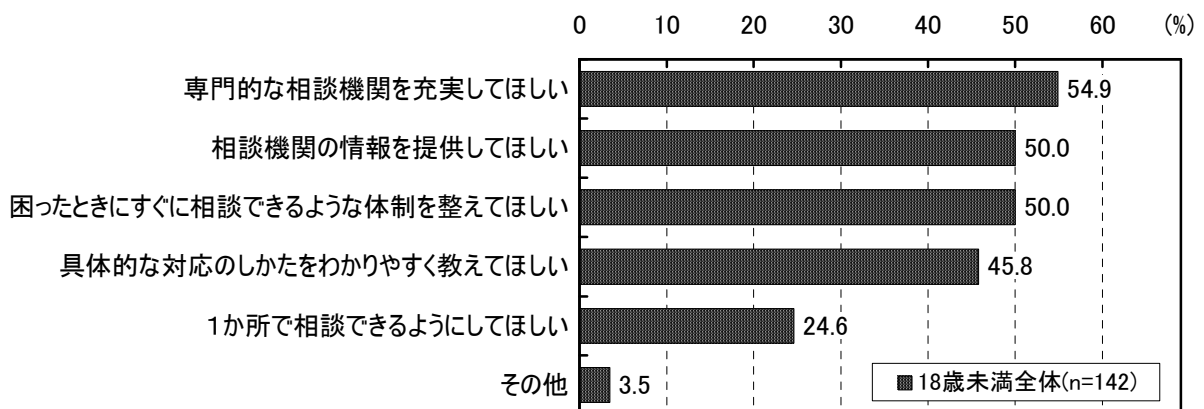
◆相談したことがない理由は何ですか。



◆市内における今後の相談支援体制について、どのようなことを望みますか。

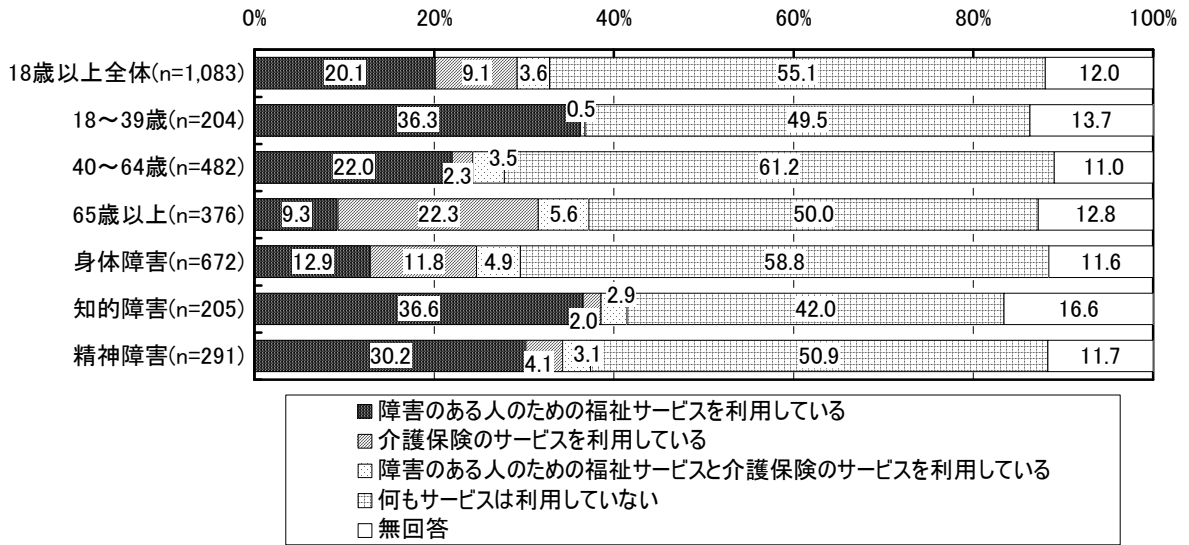


◆療育や教育に関する相談について望むことがありますか。

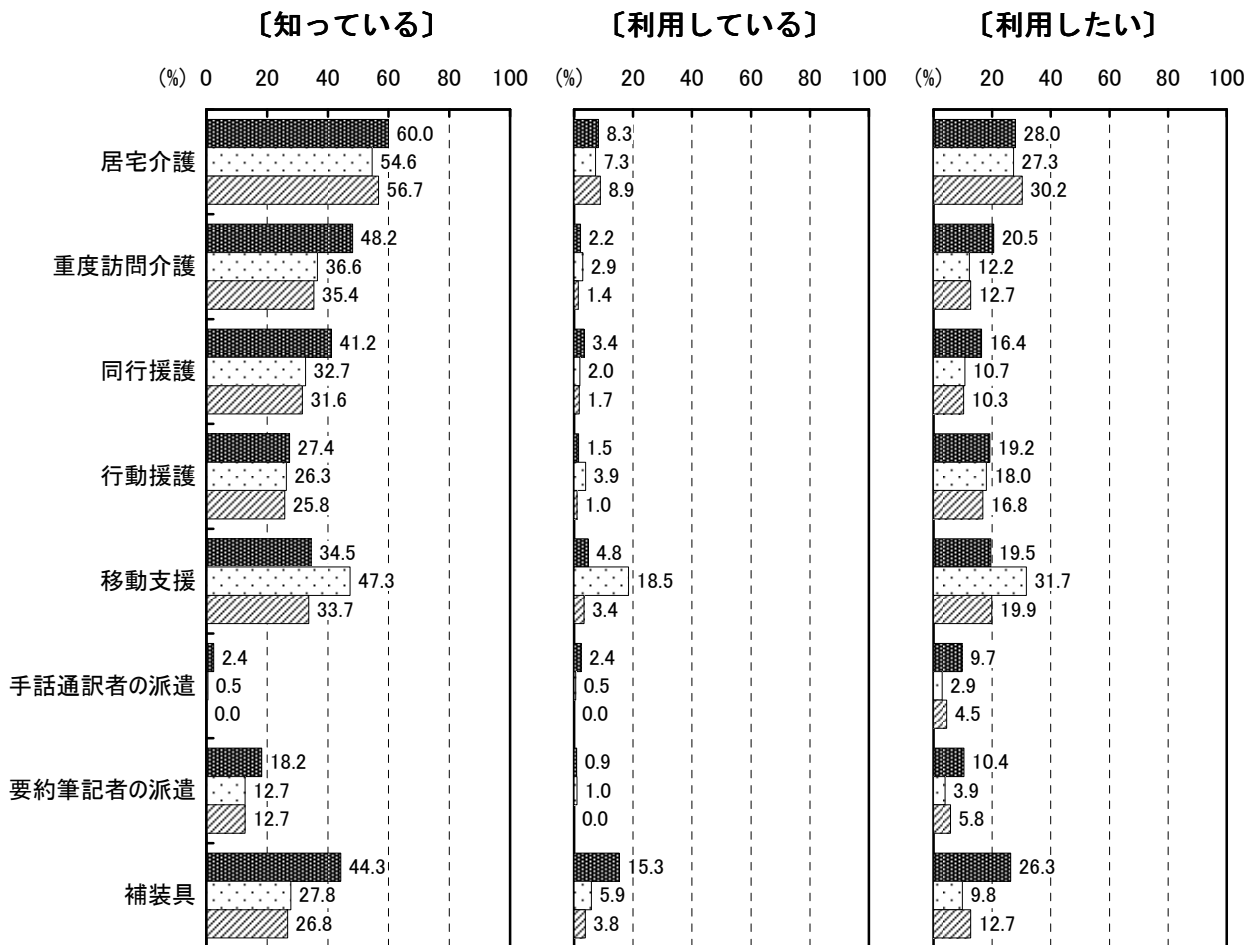


《福祉サービスについて》

◆あなたは、障害のある人のための福祉サービスや介護保険のサービスを利用していますか。

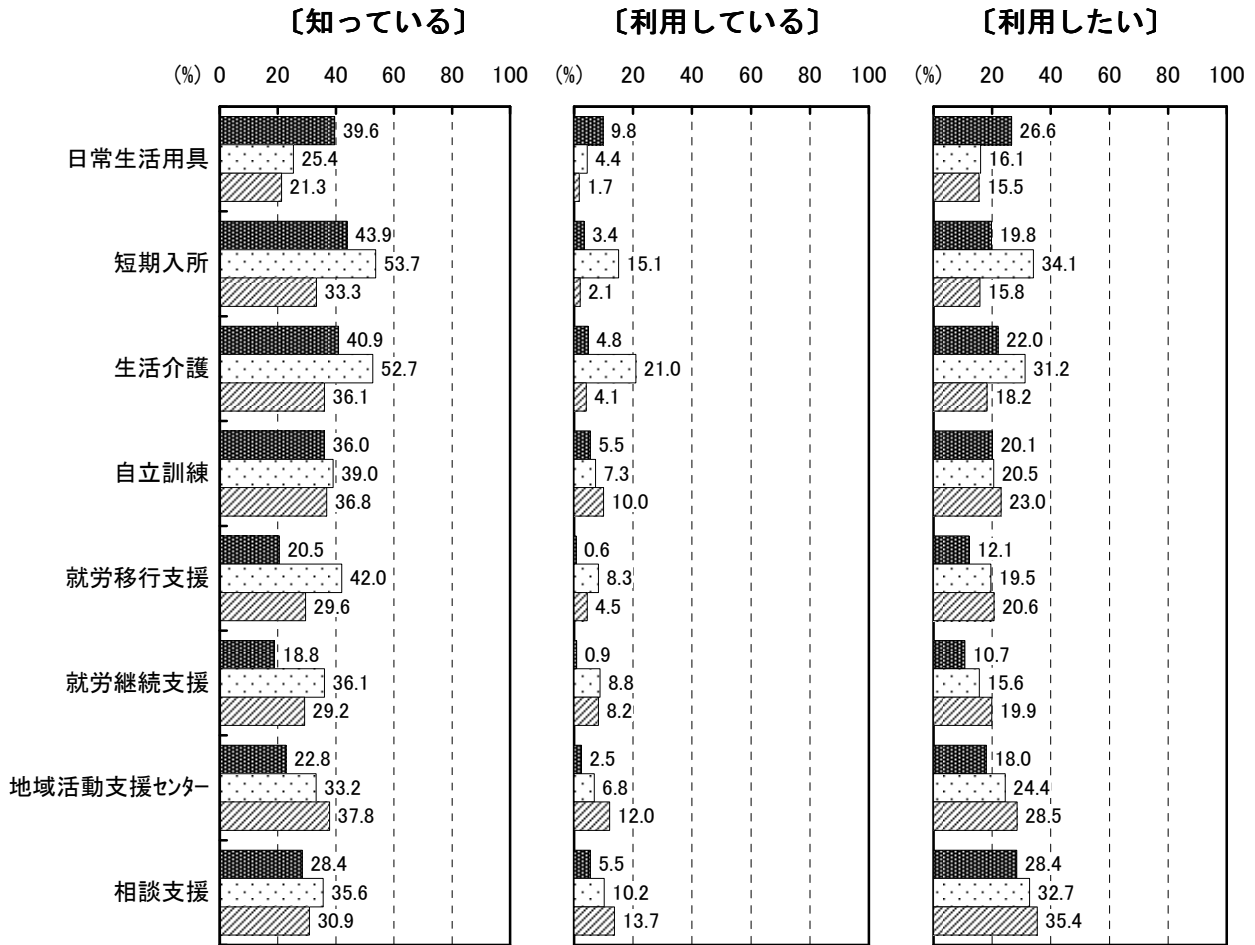


◆障害のある人のための福祉サービスについて、知っているか、現在利用しているか、今後利用したいと思うか、それぞれ教えてください。

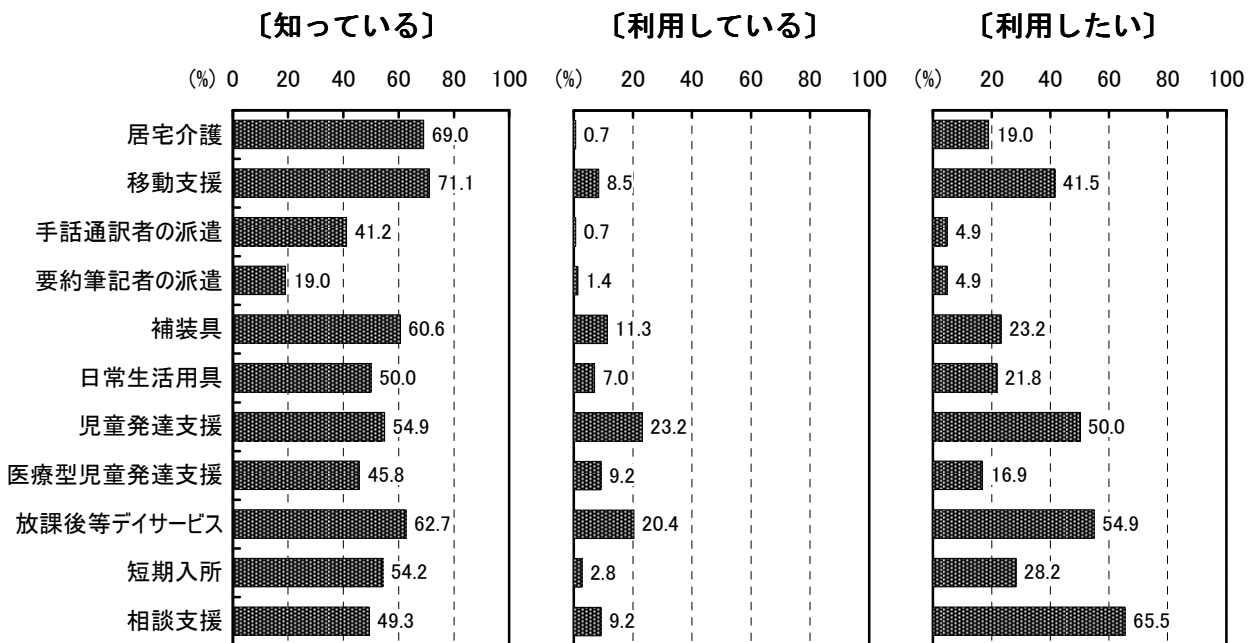


※18歳以上：上から ■ 身体障害(n=672)、 ▨ 知的障害(n=205)、 ▩ 精神障害(n=291)

第2章 障害のある人を取り巻く状況

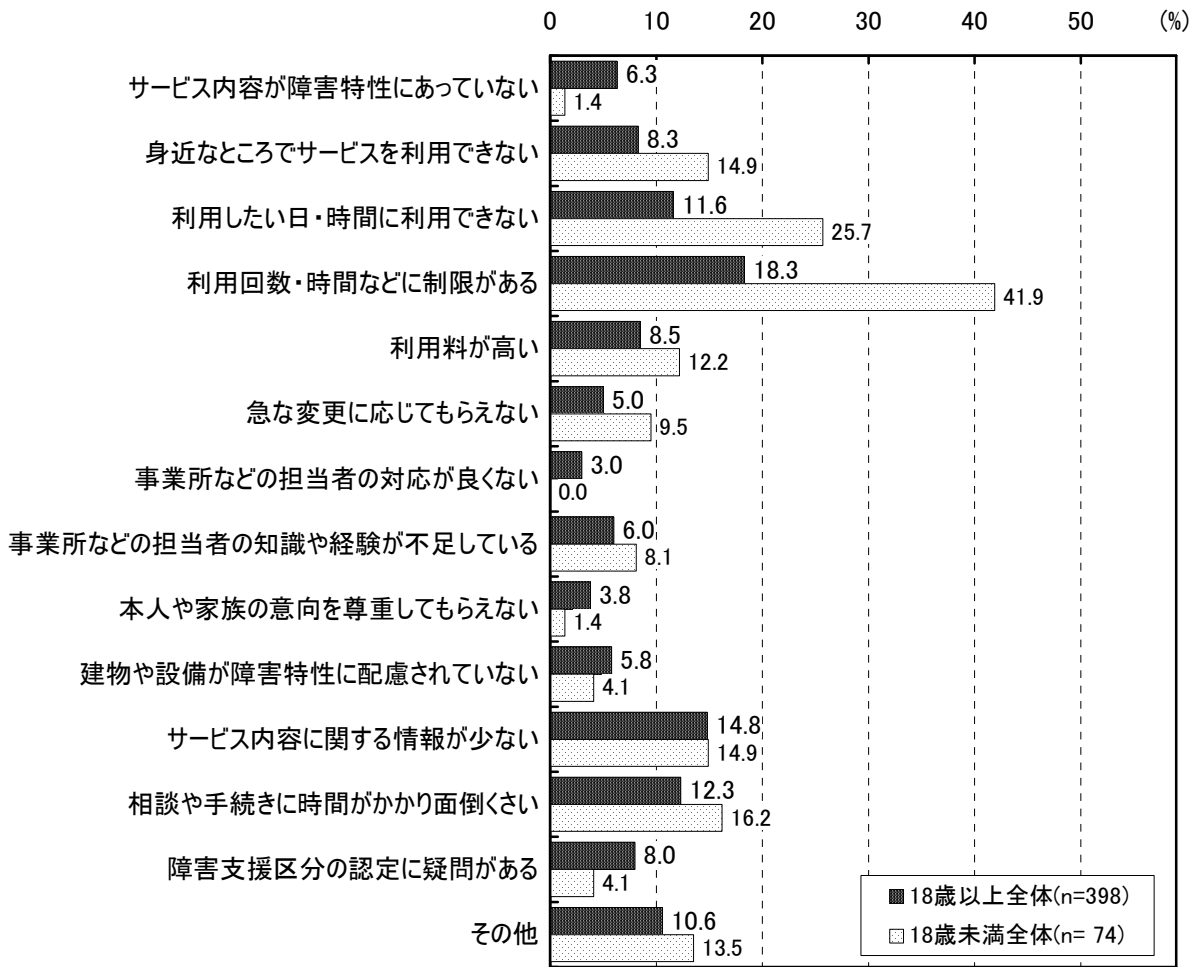


※18歳以上：上から ■ 身体障害 (n=672)、● 知的障害 (n=205)、▨ 精神障害 (n=291)

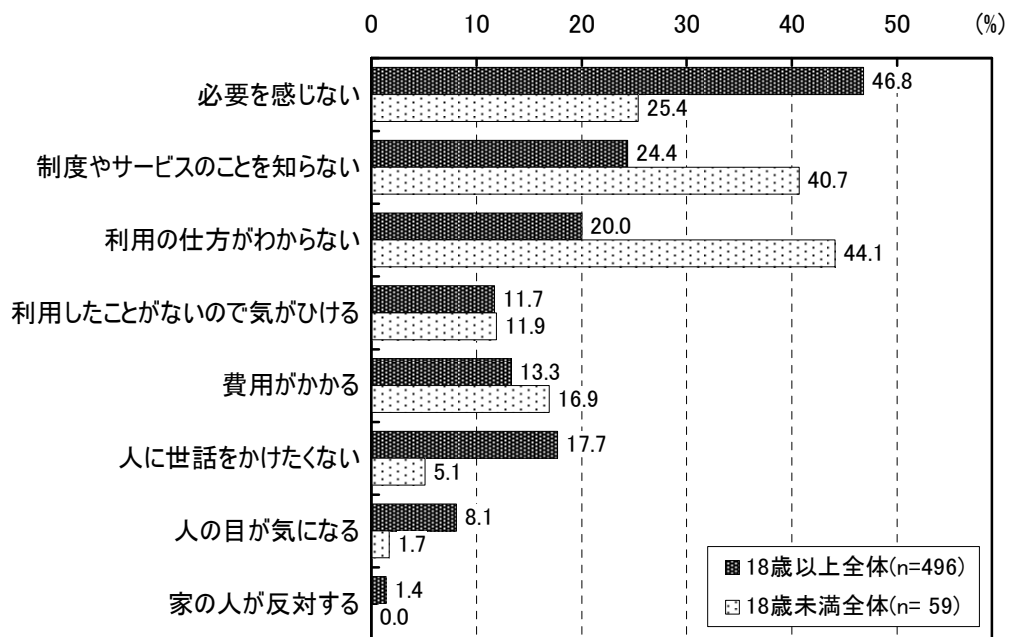


※18歳未満 (n=142)

◆何らかのサービスを利用している人におたずねします。サービスを利用して何か不満に思うことがありますか。



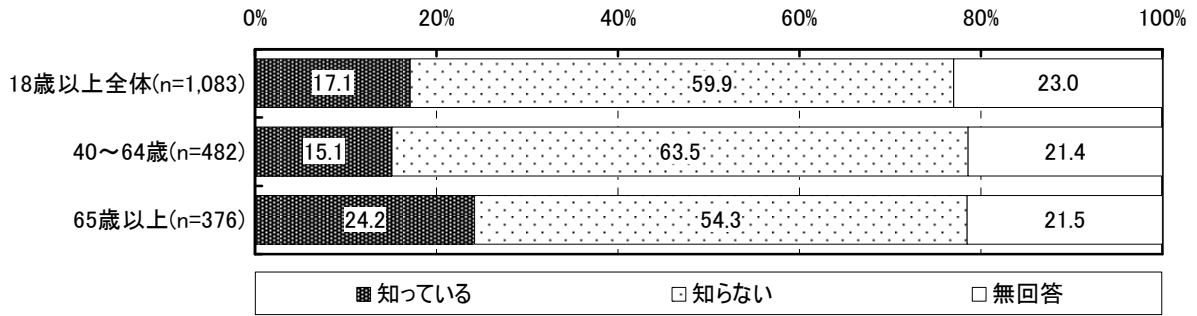
◆何もサービスを利用していない人におたずねします。サービスを利用していない理由は何ですか。





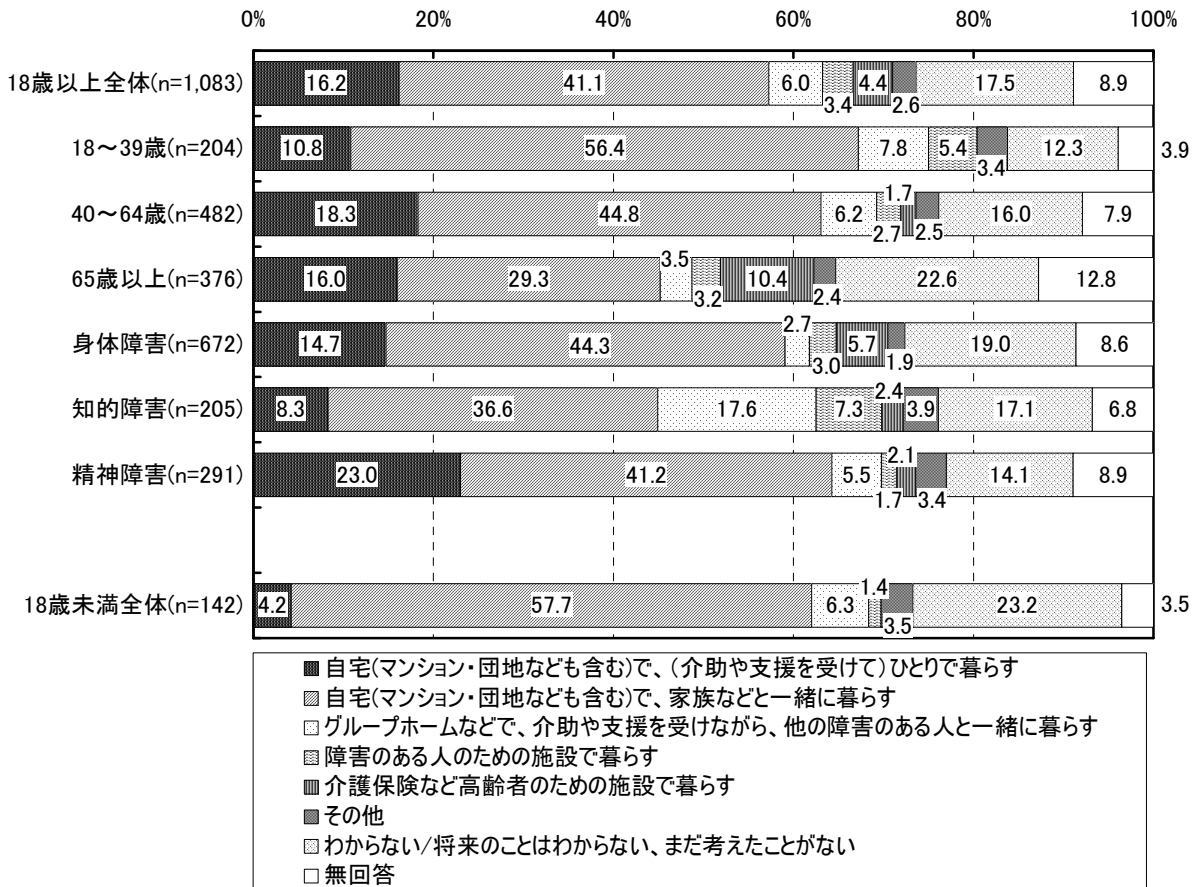
第2章 障害のある人を取り巻く状況

◆65歳以上の人や特定疾患がある場合は、障害福祉のサービスよりも介護保険のサービスの利用が優先されることを知っていますか。

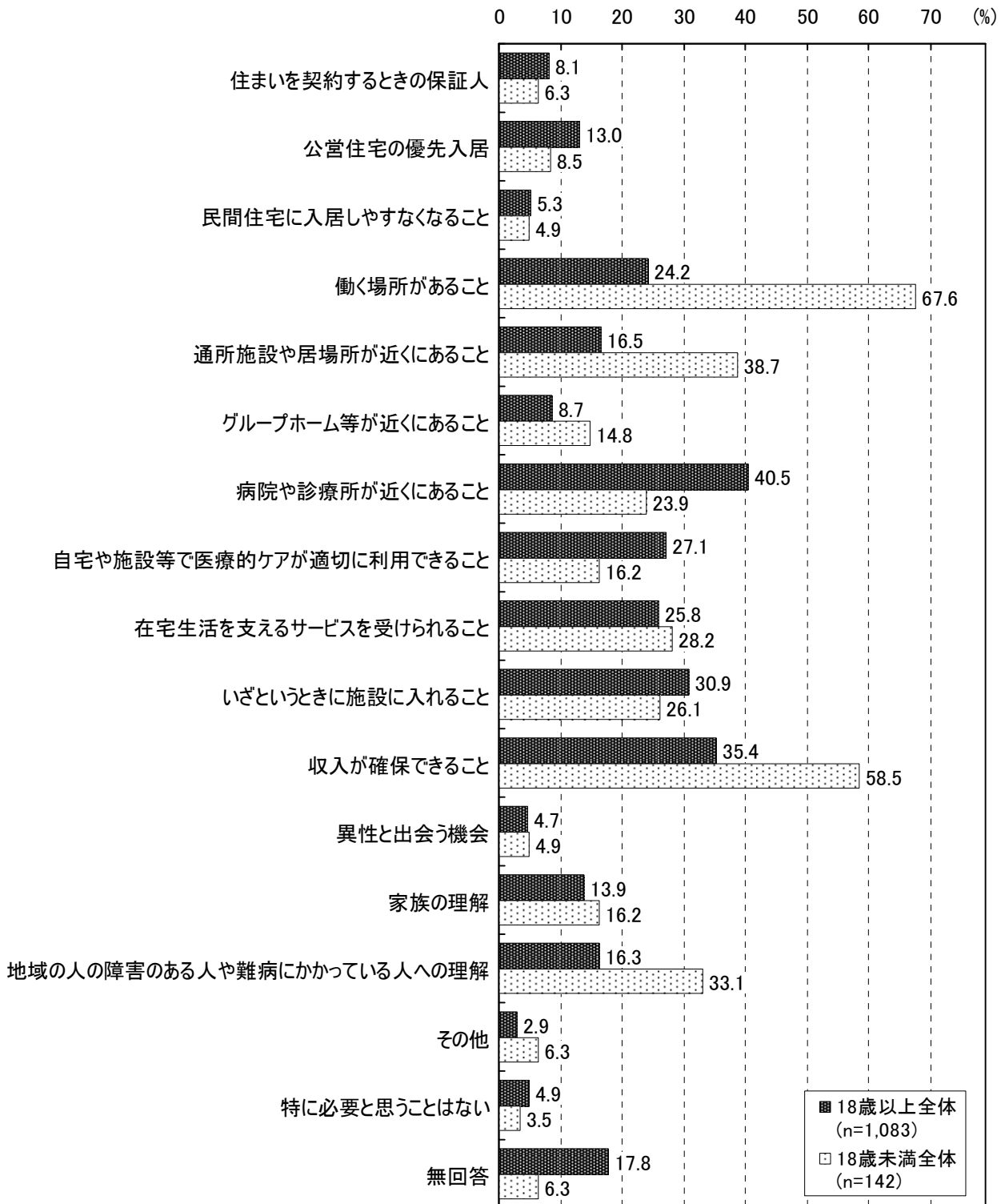


《将来の暮らしについて》

◆今から10年くらい経ったときに、どのような生活をしてみたいと思いますか。



◆あなたが希望する将来の暮らしを実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。



## (2) 障害福祉計画の策定に向けた関係団体懇談会

### ① 調査の概要

調査目的	計画の策定に向けて、障害者関係団体の会員やサービス利用者が抱える課題や施策ニーズ、計画策定への意見等を把握するために実施しました。
調査対象	市内の障害者関係団体 7団体（身体障害者貝塚市中心杖会、貝塚市視覚障害者協会、貝塚ろうあ福祉会、貝塚市手をつなぐ親の会、貝塚市障害児者父母の会、貝塚市仲よし親の会、貝塚市の精神保健福祉を考える会）
調査方法	懇談会形式による聞き取り
調査期間	平成26年8月1日～8月12日

### ② 主な聞き取り結果

テーマ	主な聞き取り内容
全般的な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して暮らせるまちにしてほしい。保護者がいなくなった後も安心して生活できるサービス、支援をしてほしい。</li> <li>・親が動ける間に、障害者本人が自立できる道筋をつくっていききたいと思っているが、毎日の生活の中で、なかなか行動できないのが現状。</li> <li>・相談、サービスについて、休日と夜間の非常時の連絡がとれないことも多く、そのときの対応をどうするかなどの問題がある。また、日中どうやって過ごすかという問題もある。</li> <li>・知的障害者を受け入れてくれる事業所は多いが、身体の不自由な車いすの障害者や、特に医療的ケアの必要な障害者が利用できる施設はとても少なく、安心して任せられる施設はないに等しい。遠方の病院併設の所に行くしかない。貝塚につくってほしい。</li> <li>・福祉の充実した都市として、千石荘病院跡地については全国的にモデルケースとなるような活用をしてほしい。</li> <li>・新たな施策に取り組む前にこれまで行ってきたことを見直してほしい。</li> </ul>
情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が受けられる福祉サービスについて、細かい説明がほしい。</li> <li>・何も知らないのもっと詳しく説明してくれる機会がほしい。</li> <li>・どのようなサービスがどこにあるか、またどういった内容なのかわからない。もっと詳しく知りたい。</li> </ul>
相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援窓口がわからないので、多くしてほしい。</li> <li>・相談体制をわかりやすく説明してほしい。</li> <li>・相談支援を担当する専門職の人を増やしてほしい。</li> <li>・年齢に関係なく、障害（身体、知的、発達）について相談ができる場所がほしい。サービス量の相談支援だけでなく、成長の相談ができる場所がほしい。</li> <li>・親が年をとって体力がなくなったり、病気になったときに安心して相談できる場所がほしい。今でもあるが、なかなか話しにくい。</li> </ul>

テーマ	主な聞き取り内容
在宅生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活のなかで、食事、洗濯、買い物、悩みごと、不安にあったときに話を聞いてくれてサポートしてくれる人がいてほしい。</li> <li>・ ガイドヘルパーを時間の制限なく利用したい。入院時にも頼めるようになればいいと思う。</li> <li>・ 通院だけじゃなく入院のときも使えるようにしてほしい。</li> <li>・ ガイドヘルパーを利用しているが、自由に歩けるだけの利用時間がほしい。</li> <li>・ 市内に障害者の利用できるデイサービス（入浴あり）施設が一つもない。今年3月末で介護保険対象者に限定され、利用できなくなり、とても困っている。近隣市町の施設もいっぱい使いつらい。</li> <li>・ 重度の障害がある人、医療的ケアを必要とする人についても利用できるショートステイ、デイサービス施設の設置を。</li> <li>・ 視覚障害者が安心して過ごせる介護体制を。</li> </ul>
意思疎通の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話通訳者の充実。難聴者、中途失聴者向けの手話講習会の実施を。</li> <li>・ 通訳を派遣できる範囲を広げてほしい。</li> <li>・ 資格取得などどうしても通訳が必要なときは助けてほしい。</li> <li>・ 携帯メールで簡単に通訳依頼できるようにしてほしい。</li> <li>・ 地域のデイサービス、ヘルパー、施設を利用する時の情報保障をしてほしい。</li> <li>・ 手話言語法の制定に力を入れてほしい。どんな時でも手話通訳が断られることのないようにしてほしい。</li> </ul>
日中活動の場の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院がデイケアとかで多くの患者さんを抱え込んでいるのは疑問に思う。</li> <li>・ 一年でも早く、障害のある人が社会復帰できる場に力を入れてもらいたい。</li> <li>・ 高齢障害者の居場所づくり、老後安心して暮らせる施設を考えてほしい。</li> </ul>
生活の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループホームの充実をお願いしたい。</li> <li>・ 本人が年をとり病気になっても利用できるグループホームができれば安心。</li> <li>・ 精神障害者のグループホームの数を増やしてほしい。</li> <li>・ 視覚障害者が入所できる施設の設立を望む。</li> <li>・ 今後、家族がいなくなったときに、障害者が安心して生活できる公的施設がほしい。</li> <li>・ 歳を重ねるごとに、重度障害を持つ子と一緒に生活は徐々に体力的に苦しさを増し、施設に預けることを検討せざるを得ない状況となってきた。近隣の施設はどの施設も空きがなく、他県の施設の利用という形で進めている。</li> <li>・ 貝塚に医療的ケアの必要な重度障害を持つ人々を受け入れる施設を、一日でも早くつくっていただければありがたく思う。</li> <li>・ 可能であれば、安心・安全・快適に過ごせる緑豊かな施設として、重度障害者や一般の方を含めたいろんな方が利用できる施設となればありがたい。</li> <li>・ 障害を持つ子が大きくなるにつれ、親の負担も増大する。親が介護が必要になれば子どもの面倒を看られないため、障害のある子は入れたくなくても施設に入るしかない。老人施設の横に障害者施設を併設したようなものをつくってほしい。</li> </ul>

## 第2章 障害のある人を取り巻く状況

テーマ	主な聞き取り内容
雇用・就労の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者を行政で雇用してほしい。特に国家資格を持った人の雇用を考えてほしい（看護師、介護福祉士など）。</li> <li>・精神障害者なので一般で働くことがすごく大変でしんどい。</li> <li>・作業所に行っていて作業があまりできていないのが不安。</li> <li>・精神障害は他の障害に比べて、待遇が悪い（交通割引、サービスなど）。</li> </ul>
各種制度の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補装具や車いすの外出用と室内用の支給を認めてほしい。</li> <li>・医療費の負担を減額できないか。</li> <li>・福祉型コミュニティバスの無料乗車証のように、水間鉄道の無料乗車証を発行してほしい。</li> <li>・障害者手帳の使える用途を増やしてほしい。</li> <li>・障害者は何かと費用がかかることが多いので、年金減らさないでほしい。</li> <li>・障害者年金の額を、生活保護並みに増やしてほしい。</li> </ul>
障害のある児童の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援センターとして早期発見、早期療育の充実、切れ目のない一貫した支援体制の構築と家族へのサポート体制の充実が必要。</li> <li>・自閉症や関連する発達障害のある人たちへの生涯にわたる支援体制の構築と、個人、家族等の個別相談支援事業の体制を望む。</li> <li>・小学3年生以降の学齢期や思春期、成人期において、問題行動やパニックになったときの対処方法等、個別に相談支援体制がない。親は手探りで対応し、悪循環に陥っている。自閉症、発達障害の研修会の存続を。</li> </ul>
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害に対する人々の理解を深め、差別や偏見をなくすための取り組みを。</li> <li>・差別や偏見があっても、自分では気づかなかつたりすることも多い。</li> <li>・精神障害のうちのいくつかの病気は、あまり社会に知られていない。「自分は病気」と知らずに苦しんでいる人や家族のために「こんな病気がある」ということを、もっと広く伝えてほしい。</li> <li>・家の中だけがすべてで、一回も社会とつながらずに亡くなる障害者もいる。</li> <li>・声の出せない人も現実にいる。行政には積極的に関わってもらいたい。</li> <li>・役所の手続き等の管理や書類に関して統一してほしい。</li> <li>・市内の病院で発達外来、障害者外来がほしい。</li> <li>・障害者向けの災害時の支援に関する資料がほしい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>